

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばい。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回からの主要変更点

なし

1. 鉱工業生産等の動向

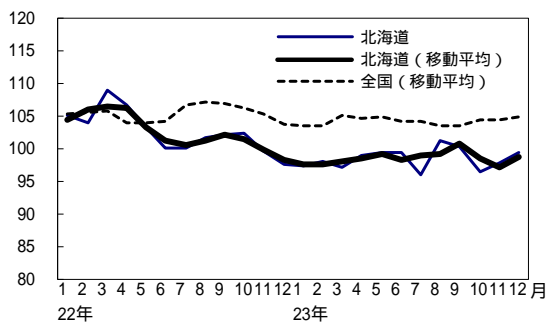
(1) 第一次産業は生乳生産は前年を下回り、主な水産物の生産額は前年を下回っている。

10 - 12 月期には、生乳生産は総量では 1,019,264t と前年同期比 1.9% 減となった。主な水産物の生産額(主要 9 港)は、さんま等が減少したため、前年同期比 10.1% 減となった。

(2) 鉱工業生産はおおむね横ばい。

10 - 12 月期の鉱工業生産は、前期比 1.2% 減となった。月別にみると、10 月は化学・石油石炭製品が減少したこと等により前月比 3.9% 減、11 月は食料品が増加したこと等により同 1.5% 増、12 月は化学・石油石炭製品が増加したこと等により同 1.6% 増となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10月	11月	12月
食料品	23.2	3.1	1.9	1.4	5.5	0.6
輸送機械	11.4	11.4	1.8	1.2	3.0	3.9
金属製品	10.7	3.3	5.4	4.9	0.2	4.8
化学・石油石炭製品	10.5	13.9	0.3	7.3	8.0	18.0
窯業・土石製品	8.8	2.5	6.9	12.4	7.7	0.0
鉱工業	100	0.1	1.2	3.9	1.5	1.6

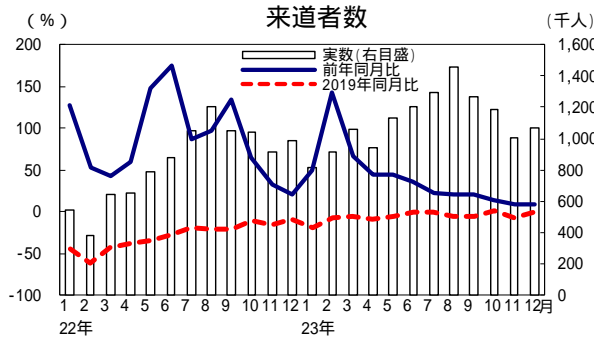
(備考) 1. 2020 年 = 100、季節調整値。北海道の最新月は速報値。
2. 全国及び北海道の太線は中心 3 か月移動平均。
直近月は 2 か月平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 5 業種。
2. 10 - 12 月期、12 月は速報値。

(1) 北海道

(3) 観光は持ち直している。

10 - 12月期の来道者数は、航空機の利用者増などがあり、前年同期比10.6%増(2019年同期比2.3%減)となった。月別では、10月は前年同月比13.8%増(2019年同月比0.9%増)、11月は同9.4%増(同7.7%減)、12月は同8.5%増(同0.5%減)となった。



(備考) 北海道観光振興機構調べ。

2. 個人消費の動向

個人消費は持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数(RDEI(消費))

10 - 12月期は前期比1.2%減となった。月別にみると、10月は前月比2.3%減、11月は同2.6%増、12月は同1.0%増となった。

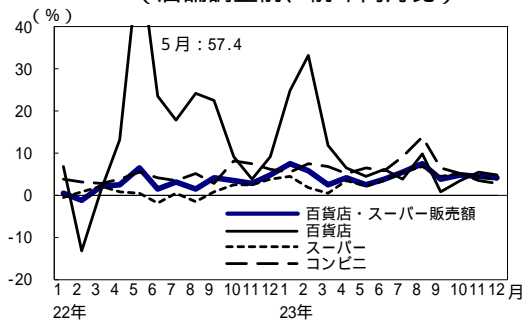
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10 - 12月期は前年同期比4.5%増となった。月別にみると、10月は前年同月比4.8%増、11月は同4.6%増、12月は同4.2%増となった。

百貨店は、10 - 12月期は前年同期比4.7%増となった。

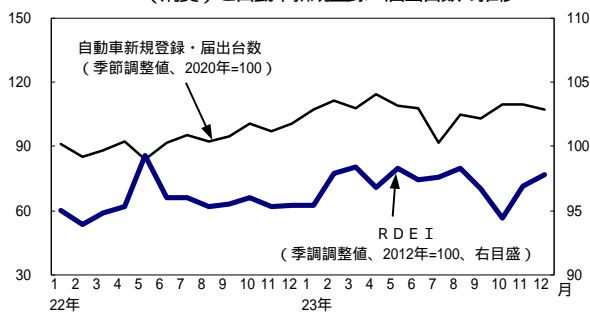
スーパーは、10 - 12月期は同4.4%増となった。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2023年10 - 12月	2023年10月	11月	12月
RDEI(消費*1)	1.2	2.3	2.6	1.0
百貨店・スーパー(*2)	4.5	4.8	4.6	4.2
百貨店(*2)	4.7	3.4	5.5	4.9
スーパー(*2)	4.4	5.1	4.4	4.0
コンビニ(*2)	3.9	5.2	3.5	2.9
乗用車(*3)	10.7	12.1	12.5	6.9
(季節調整値)(*3)	9.1	6.8	0.4	1.7

RDEI(消費)と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整前前期(月)比(%)

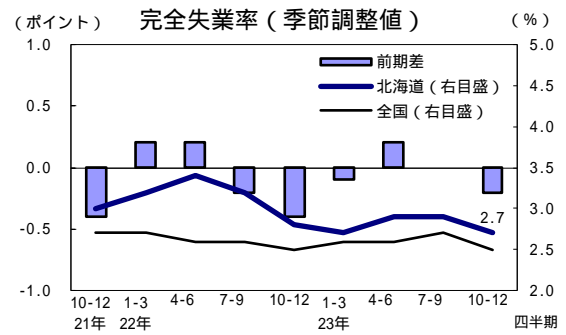
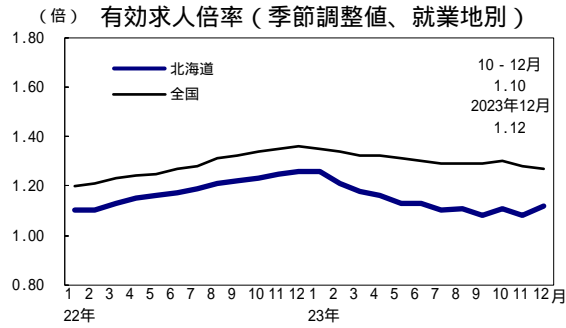
2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

3. 雇用情勢

雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっているものの、前回の景気循環の平均的な水準にある（P9 参照）。一般労働者の定期給与、パート労働者の時給は上昇している（P10 参照）。完全失業率は前期を下回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和6年1月調査）景気判断理由の概要

1. 北海道

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

現況	分野	判断	判断の理由
	現況	家計動向関連	□
▲			・1月初めの能登半島地震や航空機の衝突事故の影響により、1月前半の旅行需要が失速した。1月後半からは回復傾向にあるが、3か月前と比べると景気はやや下向きである（旅行代理店）。
○			・外国人観光客の利用が見込みを上回っている。これまで主力だった台湾が引き続き好調なことに加えて、台湾以外の東南アジア各国からの個人客もかなり目立つようになっている。これらの外国人観光客は土産品の購入額が大きいこともプラスである（観光名所）。
企業動向関連		□	・能登半島地震などの影響もあって、景気はやや悪くなっている（家具製造業）。
		○	・インバウンドの増加に伴い、インバウンド向けの販売促進の引き合いが増えている（広告代理店）。
▲	・施工者不足のため、建設現場が予定どおりに稼働できない状況が続いている。建設業者の倒産も報道されるなど、影響が出始めている（建設業）。		
雇用関連	□	・当地における12月の有効求人倍率は0.92倍であり、3か月前との比較では0.02ポイント上回った（職業安定所）。	
○	—		
その他の特徴コメント	○：正月の初売りは過去最高の売上だった。コロナ禍が明けたことで、客の消費動向がコロナ禍前の状態に戻ってきている（スーパー）。 □：石油製品価格が高止まりしていることで、客の節約志向が強くなっている（その他専門店 [ガソリンスタンド]）。		
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	□	・商品単価の上昇と買上点数の減少がみられることから、物価上昇に伴って客の生活防衛意識が強まっていることがうかがえる（住関連専門店）。
		○	・冬の恒例イベントがコロナ禍が明けて初めての通常開催となることから、景気が良くなることを大いに期待している。ただし、予約が直前に入る傾向は変わっていないため、3～4月の動きが不透明である（観光型ホテル）。
	企業動向関連	○	・民間建築工事は次年度繰越工事を複数抱えていることから、フル稼働状態が当面続くことになる。公共土木工事についても、来年度予算成立に伴う新規受注が期待できる（建設業）。
		□	・仕事量は潤沢であるが、人手不足で受注したくてもできない状態にある。今後、人手不足の状況が変わるとは考えにくいことから、同様の状態がしばらく続く（その他サービス業 [ソフトウェア開発]）。
▲	・住宅の建築確認申請の減少に伴って、今後、数か月先までは当社の受注量も減少したまま推移することになる。円安による資材価格の高止まりや住宅価格の値上がりに加えて、人口減少やカーボンニュートラルの影響もあり、住宅産業自体が衰退していくことが懸念される（金属製品製造業）。		
雇用関連	□	・新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行してから、飲食店など、サービス業の求人に関復傾向がみられる。週末勤務以外は今一つ回復の動きが鈍いものの、全体としては良い方向に進んでいる。ただし、飲食業界の人手不足は深刻である（求人情報誌製作会社）。	
その他の特徴コメント	○：春を迎えて、天候が落ち着くことになり、安定した輸送状況が期待できるため、今後の景気はやや良くなる（その他サービスの動向を把握できる者 [フェリー]）。 □：今は必要品だけを購入し、ぜいたく品の購入を控える傾向にある。円安や物価高の影響に加えて、当地では暖房代の高騰が家計の負担増になっており、こうした環境を打破する対策がない限り、春まで同様の状況が続くことになる（自動車備品販売店）。		

(D I) 現状・先行き判断D I（北海道）の推移（季節調整値）

